

# 令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 1 事業の状況

今年度も、コロナウイルスの影響で、平安書道研究会の開講が毎回綱渡り状況のまま推移した。また、平安書道研究会の受講生の新規募集や例会への出席率、連合書道展及び関東女流書展への出品点数などが全体に低下し、収益など多くの点で影響が顕著であった。

### 1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

#### (1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

1. 平安書道研究会（主催：一般社団法人書芸文化院）令和4年4月～令和5年3月  
毎月1回、第865回～第876回を実施した。各回テーマに沿った古筆を5～6点ずつ露出展示。毎回出席者が少なくなった分、受講生はじっくり観賞できるというメリットもあった。
2. 第61回現代かな書道専門講座（主催：かな書道作家協会）（令和4年4月29日）  
伝藤原行成筆「法輪寺切」、伝藤原公任筆「藍紙本万葉集切」など5点を貸し出し。
3. サントリー美術館展覧会『心の情景 歌枕』（令和4年6月～9月）に「今城切 紙本墨書 藤原教長（伝飛鳥井雅経）」など4点を貸し出し。
4. 公益財団法人五島美術館特別展「西行一語り継がれる漂泊の歌詠み」（令和4年10月～12月）に、伝西行筆「未詳歌集切」など8件を貸し出し。
5. 藤原書法研究所（関口研二代表）主催の古筆鑑賞会（令和5年2月11日）に空海筆「金剛般若経開題」、伝藤原行成筆「かな消息」、藤原定信筆「和漢朗詠抄」の3点を貸し出し。

#### (2) 写真の掲載許諾

1. (有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2023年』に伝紀貫之筆「名家集切」、伝藤原定頼筆「烏丸切」、伝宗尊親王筆「如意宝集切」など5点のカラー掲載を許諾。
2. 一般財団法人 日本書道美術院発行の『書道美術 2023年1～12月号』の表紙写真として廣部将軍碑、及び『みんなの書 2023年1～12月号』の表紙写真として、伝藤原佐理筆「筋切」の掲載を許諾。
3. 一般財団法人 日本書道美術院発行の『書道美術 2023年1月号』に伝藤原行成筆「関戸本古今集切」など計5点の掲載を許諾。
4. 教育出版発行の教師用指導書『書道Ⅱ教授資料 学習指導の研究』（令和5年4月発行）のWEB配信を許諾。
5. 書法研究社『嚶嚶』に「乾隆御墨の箱」の使用を許諾
6. 『目の眼』特集「書の宝庫日本」インタビュー記事に伝藤原行成筆「古今集切」など2点の掲載を許諾。

### 2. 書道に関する展覧会の開催（第5号事業関係）

- (1) 「第73回連合書道展」、「第36回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第73回連合書道展」を令和4年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は12団体。総出品点数は440点（前回467点）。

観客入場者数3375名（前回3149名）であった。今年度も席上揮毫を行わなかった。

また、特別企画として、「第36回関東女流書展」を開催した。関東地方を代表する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に184点（前回188点）の出品があった。

連合書道展の一環として行っている平安書道研究会受講生による第4回「臨書コーナー」は18点（前回15点）の出品があり、令和4年度が第2回となる「学生部展」は28点（前回25点）の出品となった。

令和4年度も東京都美術館講堂を会場に客員講師による講演会を聴講料2000円で開催した。

講師は池田和臣先生で演題は「源氏物語と仮名と女の一生」、106名の聴衆を集めることが出来た。これは書道展だけでなく、広く書道の普及に努めるという東京都美術館での開催趣旨にも合致し、同時に展覧会来場者への書道への関心醸成の一助にもなると考え、令和3年度より実施した企画である。

今回展では、毎日書道会が制作している展覧会紹介の動画サイト「書のひろば」で本展覧会を紹介してもらうことが出来た。You Tube 上でも見る事が可能で多くの方々に連合書道展を知ってもらえる良い機会となった。次回展以降も紹介をお願いしていきたい。

### 3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

#### (1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。

「臨書実技講座」は令和4年9月25日に松井玉箏先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の3名の講師により、受講生33名で実施。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることが出来、毎回好評である。

令和元年5月に入学した第63期生20名が令和4年4月に3か年の全課程を終えて卒業した。令和4年度の第66期入学生は41名であった。今期はコロナが落ち着いてきたこともあり、多数の新入生を集めることができた。

### 4. その他

#### (1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。今後も内容のより充実を図り、受講生のみならず一般への重要なPR用ツールとして活用していきたい。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

#### (2) 講師の先生を囲む会の開催

昨年に引き続き、今年度もコロナの影響を勘案し中止にせざるを得なかった。

以上